

I 実践

1 研究主題

思いやりと助け合いの心をもち、互いに認め合うことのできる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校では「ただしく ゆたかに たくましく」の校訓のもと、教育目標に「心ゆたかにたくましく、夢や希望に向かってただしく学ぶ児童の育成」を掲げている。それを受けて人権教育では「認め合い、助け合って人のために尽くすことのできる子」「誰に対しても思いやりをもって行動できる子」「自ら進んで学習し、物事についての正しい判断と行動ができる子」「自分の体力を知り、めあてをもって体力づくりに励む子」「きまりを守り、最後まで粘り強くやり抜く子」に重点を置いて取り組んでいる。

本校の児童は、明るく元気であり、やさしさをもって相手に接している様子が見られる。しかし相手の気持ちを考えられずに自分の考えを通そうとしたり、自分の気持ちをうまく相手に伝えられなかったりと、人との関わり方が苦手な児童が見られる。そこで、人権教育の視点から、体験的な活動や交流を通して、思いやりや助け合い、互いに認め合うことのできる児童を育成したいと考え本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 思いやりや助け合う心を育むための豊かな体験活動の実践
- イ 人権教育を進め、理解を深めるための啓発活動
- ウ 人権を理解し、人権を尊重するための環境づくり



2 実践内容

(1) 思いやりや助け合う心を育むための豊かな体験活動の実践

ア とも遊び・あおぞら班活動（縦割り集団活動の実施）

毎月第1以外の水曜日、昼休みと清掃時間をあてて、ロングの昼休みとし、児童の豊かな体験活動を推進してきた。「とも遊び」では、クラスごとに遊びを決め、楽しく遊びを行っている。

「あおぞら班活動」では地区ごとの縦割り班を編制し、リーダーとなる6年生を中心として、鬼ごっこやドッジボールなどで遊んでいる。遊びの内容を話し合う中で、異学年と遊ぶ楽しさ、上級生のリーダー意識の育成など、貴重な経験ができる機会になっている。

イ さわやかマナーアップ運動の実施

ボランティア活動の一環として、毎月の「あいさつ運動」と、年に1回縦割り集団で「地域清掃」を行っている。「あいさつ運動」では、昇降口付近で、登校している児童へあいさつをしている。普段あいさつができない児童も、この運動を通して元気にあいさつする良さを感じるきっかけになっている。また、「地域清掃」では、学校周辺のゴミ拾いをPTAの方々と一緒に行っている。通学路として利用している所や、校庭などをきれいにし、きれいな環境にすることの大切さや、感謝の気持ちを育んでいる。



ウ 地域の方々との交流

「学校子ども会」として、あおぞら班の縦割り集団で、サポーターとなる地域の方々と、年に3回、各班で様々な遊びを行った。地域ボランティアや交流センターの方々に協力を仰ぎ、集団遊びを共有した。地域の方々との交流や学年、異年齢間の交流をする中で、学年に応じた役割をもって活動し、建設的な手法により他の人との人間関係を調整したり、自他の要求を共に満たせる解決方法を見いだしたりする体験をすることができた。また、改めて地域の良さと温かさを感じたり、地域の方との絆を深めたりしている。



(2) 人権教育を進め、理解を深めるための啓発活動

ア キラリプロジェクトの実施

お互いの良さを認め合う取組として、友達の良さや頑張りに目を向け、「学校キラリ賞」「今日のキラリ」「月一キラリ」を行った。毎月、各学級で児童の頑張りを讃える「キラリ賞」を選定され、校長から表彰を受けた。全児童が表彰を受けることで、児童の自己肯定感を高めた。「今日のキラリ」では、帰りの会で1日の中での頑張りを口頭で発表し、「月一キラリ」ではクラスの中で、友達の良いところを手紙で伝え合い、1年間キラリブックに貼りためた。自分の名前が呼ばれたときの児童の笑顔や、手紙を貰ったときの喜びからも、児童が認められたことを実感したことが分かる。また、認められた児童が、さらに発表したり、みんなの役に立とうとしたりする姿が見られた。



イ 新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害の防止

誰もが新型コロナウイルスに感染する可能性があることを理解し、その中で生活していく上で

大切なことを考えるために、関連動画を視聴した。身近な人が感染した際の気持ちや行動を一人一人が考え、誰が感染しても安心して学校に戻れる環境づくりについて考える機会となった。

ウ 心の声アンケートの実施

毎月一回学校全体で「心の声アンケート」を実施し、児童の心の安定を図るとともに、人間関係の把握やいじめの早期発見・早期解決に努めた。また、毎月一回学級担任が学級児童全員と面談を行い、困っていることの相談にのったり頑張っているところをほめたりする機会を設けた。アンケートや面談で出てきた案件については必要に応じて職員集会等で情報の共有化を図り、組織的に対応するなど学校全体で関わっていけるようにした。

(3) 人権を理解し、人権を尊重するための環境づくり

ア 人権ポスター、人権メッセージ募集の実施

夏休みの課題として、各学級で人権ポスターと人権メッセージの募集を呼びかけた。家庭で親子や家族と一緒に「人権の大切さ」について考える機会となった。

イ 一人一人を大切にしたい掲示物

児童が、互いのよさを認め合う取組として「あったかい木」の作成をした。一人一人の良いところや頑張っていることを、友達からの視点で記入されることで、自分の良さを再認識し大切にされていることを実感すると共に、友達のよさに目を向けることができた。掲示することで、いつでも互いのよいところを目にすることができ、認められている感覚を実感できるようにしている。

ウ 道徳教育の充実

各学年とも、めざす児童像に向けて、道徳の時間と他教科や他領域との関連を図りながら、道徳教育を進め、道徳的心情や実践意欲を育てるための環境を整えている。

エ ユニバーサルデザインを意識した授業の工夫

人権が尊重される環境づくりの一つとして、児童一人一人が授業に集中できるように、ユニバーサルデザインを活用し、よりよい授業展開づくりに努めた。授業の板書やノートの書き方など学校全体で表記方法を統一したり、学習の見通しをもたせたりなど、新年度の学習が抵抗なく進められるよう指導にあたった。

3 成果

豊かな体験活動への実践では、友達や下級生に対して思いやりの気持ちをもって接することができるようになってきている。交流する機会を多く取り入れたことで、その場だけに止まらず日常的に下級生を思いやって接する姿も見られた。

人権教育への啓発活動では、褒められることで、自分自身が大切にされる心地よさを実感し、良い行動が強化される児童が見られた。これらは、低学年で特に多く見られた。また、それに伴い、友達の良いところを積極的に探し発信する児童が増えていた。

人権を尊重する環境づくりでは、友達の考えを知ったり、人権をより身近なものとして考えたりする機会となった。

II 今後の課題

- 1 今後も教育活動全体を通して日常的な取組を行い、人権感覚と人権意識を高めていく。体験的な活動や交流の中で、思いやりや助け合い、互いに認め合うことのできる児童を育成していく。
- 2 児童の人権意識がさらに豊かに育っていくよう、教職員ならびに家庭・地域への啓発も大切である。今後も継続的に人権感覚の涵養に努めたい。

III 人権コーナーの設置の様子

- 左：人権コーナー
(廊下掲示)
- 右：道徳コーナー
(教室掲示)
- ・あったかい木
 - ・道徳ノートから

